



●撮影
松原
光也

第 10 回

2013.2.16-17

全国バスマップサミット in 札幌

200人が熱き議論！ 道外からも80人参加

関連記事は2ページ～6ページ

☆☆活動報告☆☆

- 2月20日 2月例会・理事会
- 3月1日 地域公共交通コーディネーター会議
- 5日 福井市地域生活交通活性化会議
- 17日 第3回福井・環境ミーティング
- 27日 第10回えちぜん鉄道活性化連携協議会
- 3月例会 理事会

☆☆今後の予定☆☆

- 3月30日(土) クルマに頼りすぎない社会づくり(県民フォーラム)
- 31日(日) 福井鉄道低床型電車運行開始
- 4月17日(水) 4月例会・理事会
- 5月26日(水) 定例総会

ゆうじんの部屋 書籍紹介

フラグマティズムの作法 藤井聡
技術評論社 1580円+税

組織に属する人間は、組織の利益と人類全体の幸福とのジレンマに陥ったとき、組織の利益にしたがって動くのが「大人の対応」であろう。しかし、世の中のルールを作る指導者はそれではいけない。題名だけ見れば難しそうな本だが、結論は簡単な道徳書。私なりに要旨をまとめると

- ①個人が欲望・自らの幸福を追求することは肯定する
- ②でもそのための行動は、世界の総福祉を増大する方向でなければならない
- ③止むを得ず他人の犠牲の元により大きな幸福を手に入れられる可能性がある時は、犠牲になる人に相応の補償を考えよ。ということ。

国家が、外部不経済の内部化に努めれば、自分や自分の組織の利益に基づいて行動すれば自然に満たされるのであるが、国家に強制されるまでもなく、①～③を心がけて行動する組織・個人は尊敬されるし、そうした組織・個人が属する国は繁栄する。

「お天道様に恥じない行動」と日本で言われてきた行動をせよとのこと。TPPの是非で売れっ子になっている藤井先生であるが、より高い次元の土木計画論をめざして心理学や経済学を勉強された元々土木計画の先生である。TPPの是非については、私はよくわからないが、真理追求のアプローチ、道徳論については薄学の私も大いに共感する。

東海市会員 美濃部 雄人 Minobe Yujin

第10回全国バスマップサミット in 札幌 2013.2.16-17

報告 松原 光也

■開催にあたって

2月16日から17日に札幌で記念すべき10回目の全国バスマップサミットが行なわれました。この大会は2003年にRACDAが主催団体として岡山で始まり、バスマップを作成している団体が幹事団体として毎年開催されてきました。ROBAモノリのリマップを発行し始め、2004年9月に第2回の大会を開催しました。当時はバスマップをどうやって作るか、どんな情報を載せればよいか、バスマップを発行し続けるにはといった議題が中心でした。さらに、バスマップを作ることで見えてくる交通の問題、交通情報全体をわかりやすく提供するには交通システムも改善する必要があるといったことも話し合われてきました。エクスカッションではバスマップを見ながらバスを使って見学し、どこがわからなかったか、何か改善することはあるかなど実践的な行事も行なわれ、最近ではバスマップをまちづくりに活かす方法なども議論されています。

■札幌大会の主催団体

札幌大会では「なまら便利なバスマップ」を発行している「NPO法人ゆうらん」が中心となって7団体が「交通まちづくりフォーラム実行委員会」を組織して開催されました。札幌の事情を反映し、また、これまでの大会の経緯をさらに発展させようと、バスマップだけに特化しない交通全体を考える大会にして、一般の人に来てもらおうという趣旨だったそうです。ROBAではホジロバ交通（歩行者・自転車・路面電車・バス）の改善を目指して活動していますが、「NPO法人ゆうらん」はバス交通についての活動が中心だそうです。そこで、路面電車の延伸等を提言するなどの活動を続けてきた「札幌LRTの会」、自転車の取り組みを中心とした「NPO法人エコ・モビリティ サッポロ」、まちの活性化を目指す「まちネット」が力を合わせて交通まちづくりフォーラムを開催しようということになったそうです。それらをサポートする役となったのが、「(公社)日本地理学会・持続可能な交通システム研究グループ(STS研究グループ)」で、「NPO法人ゆうらん」の理事でもある駒澤大学の今井先生が実行委員長となって調整役となり、研究費からの資金提供、メンバーが準備を手伝うなど、バスマップから見た交通まちづくり問題という地理学の視点を取り入れた大会プログラムにしたそうです。私もこの研究グループの一員ではあるのですが、業務の都合上、ほとんど手伝えないばかりか、研究会にも立ち上げ時と、数年に1回程度しか参加できていません。それはさておき、地理学や地図が関係していることもあって、「駒澤大学・応用地理学研究所」、「北海道開発技術センター(ゆうらん代表の松本氏が所属)」も主催団体に加わりました。



写真1：プレ企画の貸切電車 道路上も雪で真白

■交通まちづくりフォーラム プログラム

2月16日(土)

【プレ企画】午前中 「札幌の公共交通の”いま”をみるー市電ループ化と公共交通の役割を考えるー」
貸切市電内レクチャー+電車事業所(車庫)見学<進行>札幌LRTの会&札幌市市民まちづくり局

【1部】 13:30~17:10

シンポジウム みんなで支える公共交通ー市民・行政・事業者の相互理解に向けてー

基調講演「市民参加の交通まちづくりーバスマップサミットの10年とこれからの地域交通」

鈴木文彦氏 交通ジャーナリスト・全国バスマップサミット実行委員会顧問

講演① 「市民パワーがバス・鉄道を救うー”いつものこと”からはじめよう」

吉田千秋氏 ひたちなか海浜鉄道(株)社長

講演② 「これが”Jーバス”だ！」~函館・陣川あさひ町会バスの取組み~

山田圭寿氏 Jーバス運営委員会総務 →急遽代表の上野山隆一氏が講演

パネルディスカッション 進行:鈴木文彦氏[前掲]、パネリスト:吉田千秋氏[前掲]、
上野山隆一氏[前掲]、大野悠貴氏(弘前大学H・O・T Managers代表)

【2部】 17:30~18:30

トワイライトアワー「敬子の部屋」~ぶっちゃけトーク★公共交通って、どうよ!?~

インタビュアー:栗田敬子(NPO法人エコ・モビリティ サッポロ)、

ゲスト:吉見宏(札幌LRTの会)、須田昌弥(青山学院大学経済学部・STS研究グループ)

アシスタント:今井理雄[前掲]

【懇親会】19:00~21:00 京王プラザホテル札幌1F「GLASS SEASONS」

2月17日(日)

10:00~12:00 分科会

分科会①「公共交通と市民は、どうかかわれるのか？」

分科会②「公共交通インフォメーションの統一的表現への挑戦」

分科会③「バスマップとまちづくりと私」

フィールドワーク「冬の札幌・公共交通をみる」

13:30~15:00 全体統括「交通まちづくりにかかわる市民活動とそのネットワークが目指すところ」

進行:東田秀美(NPO法人ゆうらん)

15:00~15:30 全国バスマップサミット幹事団体合

■大会に参加して

◎講演

今回は1日目のシンポジウムから参加しました。貸切電車は到着時にちょうど電停にいたので写真のみです[写真1]。シンポジウムは実行委員長の挨拶で、最初に書いた大会の経緯と趣旨の説明がありました。講演はいつものとおり、鈴木先生からバスのインフォメーションとバスシステムの改善の話がありましたが、今回の趣旨を踏まえてコミュニティバスなど地域の交通をどう守っていき、地域住民がどうかかわるかのお話もありました。特に山口市の交通体系全体を幹線、フィーダー、コミュニティバス、デマンドバスを組み合わせながら、段階的に行政、事業者、地域住民が参加して維持している取り組み

が紹介されました [写真2]。

吉田氏はひたちなか海浜鉄道の公募社長となって、立ち上げ時および震災復興にあたって行政と市民に支援されながら、少しずつでも乗っていただける取り組みが進んできた経緯を、上野山氏は函館の坂の上の郊外住宅地で、スクールバスと自主運行バスを町会が函館市の支援をうけながら、運行してきた経緯を紹介されました。

◎パネルディスカッション

パネルディスカッションでは上記 3 名に加え、弘前大学のサークルでバス情報誌を発行して、前回のバスマップサミットを開催した「弘前大学H・O・T Managers」代表の大野君も加わって、進行されました [写真3]。ひたちなかでは那珂湊駅に「おらが湊鐵道」応援団が土日にボランティアガイドを務めてくれている。もしこれを社員が行なった場合、沿線の清掃活動やイベント補助などを含めれば、1千万円くらいの人件費に相当するし、住民・観光客への広報効果はそれ以上の効果をもたらしている。普段、少しずつの協力が地域の鉄道やバスの支えになっていることに感謝したいと話されました。上野山氏もJ-バスの売上目標が足りなくなりそうなとき、婦人会が手作りグッズを作成し、イベントなどで販売して助けてくれて実証実験が続けられているそうです。大野君はサークル活動から始まり、自分以外はバスや交通のことがわからない女子大生だが(みんなからうらやましいとの声が!)、冊子にバスの乗り方や沿線の店紹介のイラストを描いてもらったのが好評だった。また、バスマップサミット開催を市役所やバス事業者に打診したときは学生ができるのかと半信半疑だったが、サミットの成功で今度はバス事業者のほうからイベントをやりたいと言われるようになり、交通に興味がない人も巻き込めたのが良かったのではという発言があった。最後に鈴木先生



写真2：公共交通フォーラムでの鈴木先生の講演



写真3：パネラーの3名
左から吉田氏、上野山氏、大野君



写真4：夜学・敬子の部屋
左から栗田敬子さん、吉見氏、須田氏、今井氏
玉ねぎ頭ではないですが、ルールル・ルルル・・・
という音楽は流れました

はクルマの利用が前提となるなかで、何もしないとバスの維持は難しくなっているのです、住民も含めた地域の力が試されており、今回紹介のあった事例を参考に各地域での取り組みを増やしていくことが大切と締めくくられました。

◎夜学

夜学では「徹子の部屋」をもじって、栗田敬子さんが専門家に素人目線から公共交通についての疑問をぶつけるコーナーでした〔写真4〕。「バス停が近くにないからといって、毎晩少しずつ動かしたら家の前に持ってくるのに成功するか?」、「バスって自由に走らせるの?」、「バスが便利にならないのは誰のせい?」など、なかなか鋭いつっこみを吉見先生と須田先生にぶつけられていて、面白かったです。ここで詳しく書くときりがないので、みなさんならどのように答えるか考えてみてください。

◎懇親会

今回はフォーラムの会場の関係でバスマップの販売等が行えないこと、主催者の意向でバスマップの情報交換が始まると一般参加者がついていけなくなるといった懸念から、懇親会会場でのみ行なうこととなりました。林博さんが参加できないこともあり、ROBAとして販売はせず、預かったのりのりマップを幹事団体の代表に

お渡しするだけにしました。各団体の苦労話やこれからの予定などを聞き、くじ引き&ジャンケン大会で景品の争奪戦をするなどし〔写真5〕、最後はホテル自慢の電車ケーキが登場しました〔写真6〕。バスマップサミットですから、バスじゃないの? でも、会場が鉄道会社系列なのでした。私は真ん中のチョコレートははずせば、バスと言ってもよかったかなと思いました。関西人の発想ですね。

◎分科会

私が参加したのは分科会②で、テーマは「公共交通インフォメーションの統一的表现への挑戦」でした。バスの情報はわかりにくいということで、井上学先生（平安女学院大学・STS 研究グループ）から、ただバスマップを作るだけでなく、表現方法を全国的に統一して、のりば案内、バス停表記、バスの方向幕などでも統一していく必要性について事例をもとに提示され、参加者から各地の先進事例について紹介がありました。最後にサミットではいつもこの問題がとりあげられているので、「バスマップの底力」を発行したように、何か形にしていこうということで一致しました。

他の分科会でも、バスマップと商店街マップなどと一緒に作って色々な人を巻き込んでいこうといった提案や、バスマップへの関わり方として専門知識がなくても、まず見て乗ってもらってどこがわから



写真5：懇親会のくじ引き&ジャンケン大会
最初はくじ引きだったのですが、当り番号が
なかなか出ず、結局はジャンケンで争奪



写真6：電車ケーキ バスに見えなくもない?

なかったか、どこで迷ったかを教えてもらうことで、作る側も多いに参考になるといった意見が出ていたようです [写真7]。

◎総括

札幌では人口集積があるので行政の支援を受けずにバス会社単独で工夫しながら経営されているが、一歩間違えると大きなバス会社も倒産してしまったようで、地下鉄・路面電車・バスそれぞれの役割と連携が課題になっているようです。今回、各団体が実行委員会形式で集まったことはひとつの始まりとして、各方面の取り組みに活かしていけるのではないかというのがこの大会の成果だろうと述べられていました。また、札幌の他の団体から、「NPO ゆうらん」はバスのことをやっている特異な団体と思っていたが、こんなに多くの団体とつながりがあって、参加者約 200 名のうち、70 名もの人が道外から来られていたことに正直驚いたという発言もありました。

サミットを契機に各団体の連携が深まることを望みます。ただ、幹事団体で毎年発行してきた松江でも今年は発行できなかつたそうで（「バスマップすごろく」は新規作成）、市民団体だけで維持していくことの難しさも感じました [写真8]。行政がモビリティマネジメントとして新たに発行する場合も増えているのですが、こちらも補助金がとれたときだけ発行される場合が多いので、幹事団体会合では「バスマップ法」をつくらないといけない、全国のバスマップを紹介できるポータルサイトを WEB で作ろうといったことなどが議題になりました。

次回のバスマップサミットは以下のとおり開催されます。

第11回 全国バスマップサミット in 高松 日時：2013年9月15日（日）・16日（月）
場所：丸亀町レッツホール（丸亀町壱番館東館）高松市丸亀町1-1
主催：『ぐるっと高松』公共交通を育てる会 問合せ racda_okayama@ybb.ne.jp（RACDA から転送）

なお、毎回開催地選びに苦勞することから、次々回についても決めておくことが慣例となり、2014年度は京都で開催することとなりました。京都といっても、私の提案ではなく、関西で行なわれたことがないのでどうかといった声に対して、平安女学院大学の井上先生が実行委員長を引き受けるということで内定したものです。でも大変なことに変わりはないかも・・・



写真7：分科会②の様子
ラクダの岡さんをはじめ濃いメンバーが集まる



写真8：のりのりマップの展示

福井鉄道 F1000 形 試運転模様

撮影日：20130321~22

撮影者：清水 省吾



●田原町 付近



●仁愛女子高校 駅



●福井駅前 付近



●三十八社 駅

照ちゃんの気になる風景 part35



作／漆崎 耕次



●福井駅前アーケード（現在取り壊し中）

昔・昔このアーケード内には「ひまわり書店」があったそう
な。電車待ちの高校生や社会人を中心にそれはそれは繁盛して
の一。時は流れこの書店も随分と昔にコンビニに変わり、現在
はごらんのとうり取り壊し中じゃよ。確かに街中の書店も郊外
の書店におされ、名前のとうり「ひま」かもしれんの一。

しかし、こんな所に眼が行くなんてわたしゃ、職業病かの？

編集後記・・・編集委員より一言

内田（発行責任者）

「原稿を書く時間が・・・・変集長ゴメンナサイ！」

林（変集長）

「また、田んぼの季節がやってきました。農作業がで
きる環境と自分の身体に感謝感謝！」

事務局 特定非営利活動法人

ふくい路面電車とまちづくりの会（ROBA）

910-8031

福井市種池1丁目1905-3

TEL：0776-25-7968

e-mail：roba@mbh.nifty.com

URL：http://roba.cocolog-nifty.com/roba/home/